

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター（第20回）

CREATE、第1年次がもうすぐ終了

2014年5月に開始されたCREATE（第一年次）は、来月の3月15日（火）を最終日として終了します。第一年次は、途中で延長されたこともあって、全工程が23カ月という約二年にも及ぶ長いものとなりました。このプロジェクトを振り返って見ると、JICA 専門家34名、プロジェクトスタッフ35名、CDT メンバー56名（いずれも「のべ数」）、合計125名にも及ぶ方々が関わったこととなります。なお、この数字には短期の通訳の方などは含みません。こういう方たちも含めると140名は軽く超えるでしょう。

このように、大勢の方々の努力のおかげで、「ミャンマー語」、「英語」、「算数」、「理科」、「社会」、「ライフスキル」、「体育」、「芸術」（音楽と図画工作）、「道徳公民」の9教科10冊の小学校1年生用教科書及び教師用指導書がほぼ完成してきました。現在、1年生用の教科書及び教師用指導書の最後の仕上げと並行して、小学校2年生の教科書内容開発に入っている教科もあります。

今後、CREATE では成果品（「業務完了報告書」及び1年生教科書及び教師用指導書など）、精算報告書などをJICA に提出し、第二年次のプロポーザル作成、JICA との調整を経て第二年次の開始となります。

新政権と教育改革のゆくえ

昨年11月8日に実施された総選挙によってアウンサンスーチー氏率いる国民民主同盟（NLD）が大勝したことは周知のとおりです。この選挙結果を受けて、現在、新政権の準備が着々と進められています。今月1日にはNLDによる初の議会が召集され、下院及び上院の議長と副議長が選出されました。選出された方々の所属母体や出身民族を見ると、NLD はもちろん、テインセイン大統領の連邦団結党（USDP）、アラカン民族党（ANP）などから選ばれていると同時に、ビルマ族、カレン族、ラカイン族出身者となっています。NLD の民族融和を図る方針がここに表れていると言えるでしょう。

ところで、もともとはこの議会で次期大統領を決定する予定でしたが、現憲法（2008年成立）の第59条 第6項「大統領及び副大統領の要件」で「本人、両親、配偶者、子供とその配偶者のいずれかが外国政府から恩恵を受けている者...（中略）...であってはならない」という規定によってNLD 党首が大統領になれないということもあって、同議会での大統領選出は見送られました。聞くところによれば、NLD は、現憲法を「一時停止」して党首を大統領に指名したい考えで、今まさに水面下での調整が行われているようです。ただ、3月17日までは新大統領を選出する必要があるとのこと。

加えて、現在進められている教育改革においても、未確定要素が多分に出てきました。まず、今年6月から導入予定であったKG（幼稚園教育）に対してNLD 教育担当者は批判的な姿勢を崩していません。彼女からは「すでに開発済みの『KG ワークブック』は質が低く、使用に耐えられない」¹というコメントが出されており、『KG ワークブック』の配布はないのではないかと噂も流れてきています。このように、これまで進められてきた教育改革もここに来て足踏み状態となっており、今後、クリアにしていかなければならないハードルがいくつかありそうです。

CDT メンバー、昇進試験を受ける！

去る2月25日（木）、教育省にて現職職員に対する昇進試験が実施されました。CDT からも教育省

¹ もともとKGはUNICEFが支援していたのですが、『KG ワークブック』の開発についてはUNICEFは全く関与しておらず、教育省の少数のスタッフだけで約二カ月の間に急遽作成したようです。したがって、内容のほとんどがインターネットや他の資料から転載されたものであるようです（UNICEF、NLD 談）。

所属の12人が受験しました。試験方法は、10~20分の個人面接で、①現在の業務内容の説明（責務遂行状況）、②カリキュラムや教育内容についての質問（知識レベル）、の二項目について面接官からの質問に回答するというものです。この昇進試験に合格すると、階級が一つ上がり、それによって給与も引き上げられるとのことでした。

翌26日（金）は、お互いに面接内容について意見を交換するなど、CDT内はこの話でもちきりでした。可否は、上記①と②の合計点数で決定されるそうですが、合格発表までは、各CDTも気が気ではないようです。

受験されたCDTの皆さんが無事合格して、昇進されることを祈っています！

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）

編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）